

日程表

ごちがいさご



1	10/21 (日)	10:00	ホテル	開会式
2	10/22 (日)	10:00	ホテル	茶会
3	10/23 (月)	10:00	ホテル	茶会
4	10/24 (火)	10:00	ホテル	茶会
5	10/25 (水)	10:00	ホテル	茶会
6	10/26 (木)	10:00	ホテル	茶会
7	10/27 (金)	10:00	ホテル	茶会
8	10/28 (土)	10:00	ホテル	茶会
9	10/29 (日)	10:00	ホテル	閉会式

1995年
日本文化月間
ブルガリア茶道文化交流団青年奉仕隊

社団法人 茶道裏千家淡交会青年部北陸信越ブロック

企画主催：茶道裏千家淡交会青年部
北陸信越ブロック
共催：財団法人 今日庵国際局
社団法人 茶道裏千家淡交会
：駐ブルガリア日本大使館

日程表

副専使茶てい代バテ

	月日	地名	時刻	交通機関	日程	宿泊・ホテル
1	10/21 (土)	成田空港発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発 ソフィア着	12:45 16:23 17:30 21:05	航空機 航空機 航空機 航空機	空路、成田よりコペンハーゲン経由で、ブルガリアの首都ソフィアへ 着後、ホテルへ。	ソフィア (ニューオータニ)
2	10/22 (日)	ソフィア滞在		専用バス	人民文化宮殿にて茶会準備。 11:30 式典・茶会・昼食・休憩 14:00～17:00 一般市民招待茶会 (デモンストレーションと呈茶)	ソフィア
3	10/23 (月)	ソフィア滞在		専用バス	午前■代表団、文化省・日本大使館 表敬訪問。 ■一般団員ソフィア市内観光 午後～夕刻 政府要人招待茶会。 (在ブルガリア日本大使館共催) 【於:人民文化宮殿】	ソフィア
4	10/24 (火)	ソフィア滞在		専用バス	08:00 ホテル発 「ブルガリア正教の総本山、リラの 僧院見学」 16:00 ホテル着 17:00～19:00 キリルとメトディ国際基 金での懇親茶会 20:00 民族舞踊とブルガリア名物料理	ソフィア
5	10/25 (水)	ソフィア ～ プロブティフ		専用バス	08:00 ホテル発 11:00～16:00 昼食をはさんで市内観光 17:00 茶会会場着 18:30～20:00 デモンストレーション 20:00～ 市のVIPと夕食会 【於:ローマ遺跡予定】	プロブティフ
6	10/26 (木)	プロブティフ ～ ソフィア発 ウィーン着	午前 夕刻 夕刻	専用バス 航空機 航空機	出発まで、プロブティフ旧市内観光 夕刻、空路ウィーンへ 着後、ホテルへ。	ウィーン (ドゥ・フランス)
7	10/27 (金)	ウィーン滞在		専用バス	午前、ウィーンの森観光 昼食は、名物料理ウィンナーシュニツ ツェル 午後、ウィーン市内観光 (シェーンブルン宮殿など)	ウィーン
8	10/28 (土)	ウィーン発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発	11:50 13:35 15:40	航空機 航空機 航空機	空路、コペンハーゲン経由で帰国の途へ	機中泊
9	10/29 (日)	成田空港着	10:20	航空機	着後、空港にて解散。	

ブルガリア茶道事情

ブルガリアといえば日本ではヨーグルトでお馴染みの国であるが、西ヨーロッパ諸国に比べると実際にはあまり馴染みのない国である。しかしながら、この国にも裏千家茶道が根付きはじめていたのである。

ご存じの通り東欧には旧ソ連時代に誕生した裏千家モスクワ同好会がある。鵬雲斎お家元のモスクワ大学名誉教授御就任をはじめ、モスクワ大茶会等の諸行事を通して築かれた堅固な基盤によって、揺れ動く国際情勢とは裏腹に着実に発展してきており、宗家より派遣の西川宗篤駐在講師を中心に、定期稽古や各地での茶道紹介に意欲的に取り組んでいる。今や初心者への指導ができる者も何人が育ってきている。

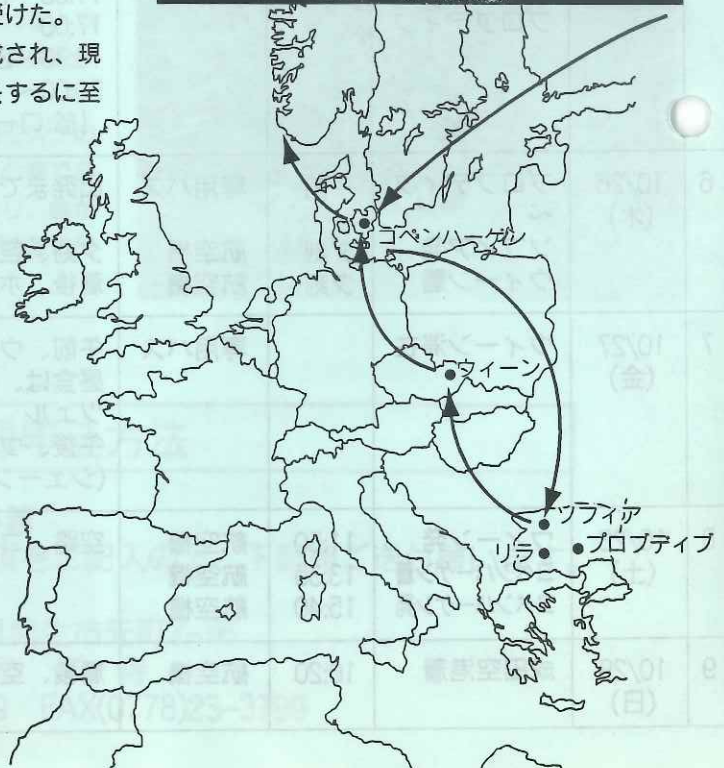
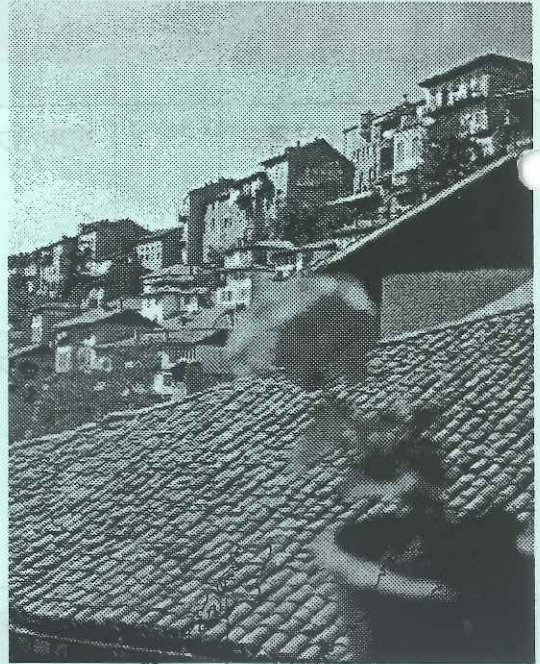
ブルガリアへの茶道普及はこのモスクワ同好会が拠点となっている訳であるが、同好会で茶道を学んでいるブルガリア人の会員が、茶道の素晴らしさを是非とも故国に紹介し、定着させたいと二年前に願いだしたことがその発端となった。又、当時の駐ブルガリア田島高志日本大使が茶道に深い理解を持っておられたことから、是非とも茶道文化の紹介をとの要請があり、平成四年十一月、日本文化月間の一環として、首都ソフィアでの初めての茶道紹介が実現した。

ブルガリア側の受け入れはキリルとメトディ国際基金という財団が茶道を高く評価し、積極的に協力を申し出てくれた。この財団はキリル文字（ロシア文字の原型）を創ったといわれるキリル兄弟の理念を基に、美術館活動や教育事業を広く行っている。副総裁をブルガリア首相が務めるなど、最も権威ある文化団体で、日本大使館の文化活動もこの団体と強く連携している。日本語を自由に話せる知日派のスタッフもあり、以来この財団がブルガリアに於ける茶道普及には欠かせない存在となっている。

茶道に初めて接し深く感銘を受けた人々の熱意がお家元に通じ、平成五年三月、西川駐在講師による二週間の集中講義がキリルとメトディ美術館にて実施された。ソフィア大学日本語科の学生を中心に七十名が参加。新任の藤原武平太日本大使が全日程に出席された事に参加者全員が感銘を受けた。

以後、自主的に稽古を重ね、「茶の湯の会」が結成され、現在正式な文化組織とするための法的な手続の準備をするに至っている。将来の指導者として宗家みどり会にて研修中の留学生もあり、輝かしい未来が予感される。

いちようプラザ 裏千家国際局



交流事業概要

内容

- 一、政府要人招待茶会
- 一、文化省・日本大使館表敬訪問
- 一、一般市民招待茶会 (於 ソフィア市
於 プロブディブ市)
- 一、キリルとメトディ国際基金での懇親茶会
- 一、プロブディブ市 V.I.P との夕食会

気候と服装

ブルガリアの旅行シーズンは春から秋。黒海沿岸のリゾート地も5~10月がシーズンとなっている。ただ、大陸性気候なので、朝晩は冷えるので、コートを持参するとよい。

月別平均気温表(°C)	9月	10月	11月
ソフィア	15.5°C	9.9°C	2.5°C
ウィーン	18°C	11°C	5.5°C
東京(日本)	23°C	17°C	12°C

ブルガリア人民共和国 Republic of Bulgaria

面積：11万912平方キロ(日本の約三分の一)

資源：石炭、鉄鉱石、銅、鉛、亜鉛、石油

人口：847万人

民族：南スラブ系のブルガリア人が約85%,その他トルコ人約9%,アルメニア人、マケドニア人、ジプシー

言語：ブルガリア語

宗教：ブルガリア正教徒のほか、少数のカトリック教徒、プロテスタント、イスラム教徒

政治体制：共和制

国民総生産：97億7300万ドル

一人当たり国民総生産：1160ドル(日本の約37分の一)

通貨：レフ(Lev,複数はレバLeva)。1ドル=67レバ

失業率：16.1%

バルカン山脈が中央部を東西に走り、ロドピ山脈が南部でこれと平行する。北部国境を形成するドナウ川とバルカン山脈の間にドナウ台地があり、両山脈間の平野部とともに地味豊かな農業地帯が広がる。ブルガリアといえば誰もが思いつくのがヨーグルト。現地でもヨーグルト(キセロ・ムリャコ)は本当によく食べられる。しかし、砂糖やジャムと食べるのではなく、いろいろな料理に応用している。ポテトサラダもヨーグルトであえるし、「スネジャンカ(白雪姫)」「パニツツァ」と呼ばれるパイの具にも野菜と一緒に用いる。とにかく、ヨーグルトはブルガリア料理に不可欠だ。

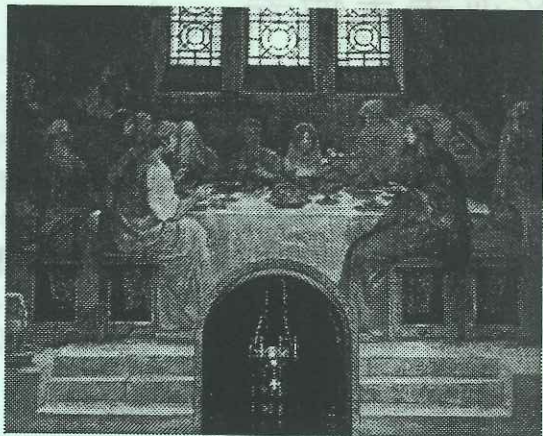
首都：ソフィア、人口113万人

主要都市：プロブディブ(人口35万人)、バルナ(30万人)、ルセ(19万人)、ブルガス(19万人)



■ソフィア

ソフィアに遷都されたのは、露土戦争の末、トルコからの独立を勝ち得た後のことだが、町の歴史は紀元前5~4世紀にさかのぼる。古代トラキア人によって建設され、ローマ時代にはセルティカとよばれていた。その後、フン族、東ローマ帝国、スラブの支配を受け、14世紀から19世紀まではオスマントルコの圧制のもと、苦しむことになる。オスマントルコからの解放の後には、都市計画に沿って開発が進められた。そのため、ソフィアの町は区画が整っており非常に歩きやすい。トルコの治世下のもと、彼らの神経を逆撫でないようにつくられた地下教会「聖ペトカ教会」、丸いドームと高いミナレットが目を引くトルコ時代の栄華を感じさせる「バーニャ・バシ・モスク」、1981年にビトシャ通りに建てられたソフィアの新名所「NDKリュドミラ・ジュウコヴァ人民文化宮殿」などみどころ数々。



■リラの僧院

ソフィアから南に119km。リラの山の奥深くにひっそりと建つブルガリア正教の総本山ともいべき僧院がある。ユネスコの文化財に指定されるなど120ある僧院は非常に美しくまた、国の財産となっている。王国時代に開花したブルガリア正教は、500年間のトルコの支配の下凍結されたが、この僧院に限り存続を認められたという貴重なもの。

■プロブディフ

ソフィアの南東125km、トラキア平原のほぼ真ん中にあるプロブディフはブルガリア第二の都市である。ローマ、マケドニア、トルコなど数々の民族の抗争の的になった美しい町。迷路のような旧市街を歩けばそれぞれの時代を象徴する建造物に出会う。ブルガリアーの大河マリツァ川が流れるトラキア平原は、温暖多湿であり、ブドウ、イチゴなどの果実やタバコ、綿花などの生産が多い。

中央広場、ローマの公開会議場跡、円形劇場、金曜モスクのある新市街。「プロブディフの旧市街は、画家たちの夢であり、地図職人にとっての悪夢である」といわれており、曲がりくねった坂道に、左右対称で張り出した飾り窓が特徴の民族復興スタイルの家々が並んでいる。

